

# 目に見えない！ 社会に見えない障害を知ってください！

## 筋痛性脳脊髄炎/ 慢性疲労症候群 (ME/CFS)

・身体的/知的労作により激しい症状再発につながる全身性の労作不全(PEM)を特徴とする、脳と中枢神経に影響を及ぼす多系統慢性疾患(WHO国際疾病分類では神経系疾患)。免疫障害・神経機能障害・認知機能障害、睡眠障害、自律神経障害を含み、その他の症状に、広範囲の筋肉痛・関節痛、咽頭痛、リンパ節圧痛、頭痛などがある。厚生省調査では患者数約10万人と推定、3割が寝たきりか家から出られず、成人患者の0~6%のみ発症前の身体機能を取り戻せる。病態不明、有効な治療法もないが、最新研究では脳の炎症、免疫異常が報告されている。

## 線維筋痛症 (FM)

・検査では、明らかな異常はないが、全身や体の一部に日常生活に支障をきたすほどの激しい痛みやこわばりが生じる病気。「血管のなかをガラスが流れるような痛み」「電気が通るような痛み」「鈍痛」など個人差がある。そのほかに、疲労・倦怠感、睡眠障害、抑うつ、自律神経失調、胃腸症状、レストレスレッグスなどが起きる。問診と、3ヶ月以上続く疼痛に加えて、少なくとも特徴的身体の健付着部の18ヶ所のうち11ヶ所以上に圧痛点を確認した場合、診断される。(11箇所以下の場合もある。)

## 化学物質過敏症 (MCS)

・建材、家具接着剤、農薬、殺虫剤、虫よけ剤、塩素系漂白剤、消臭スプレー、合成洗剤、合成香料(香水、柔軟剤、シャンプー、ヘアケア剤等)、たばこの煙、灯油、ペン、印刷物など、大量の化学物質、または、少量の化学物質に繰り返し吐露された時、発病する環境病。皮膚炎、鼻炎、咽頭炎、喘息、不整脈、下痢、便秘、異常発汗、冷え、不眠、うつ、認知機能障害、痙攣、頭痛、関節・筋肉の激しい痛み、発熱など、多くの症状を引き起こす。重症になると、学校や仕事に行けない、家事などができないなど、普通の日常生活が送れなくなる。

## マダニ媒介感染症： ライム病と共感染症

・米国(CDC)におけるライム病感染報告数は、年間3万人を超え、推定感染者数は、年間30万人以上。日本では、20年間で、報告数231例のみだが、国立感染症研究所は、野鼠やマダニの病原体保有率は欧米並みのため、ライム病が蔓延している可能性が高いとする。短期抗生物質治療で治癒しないケース(治療後ライム病症候群)や偽陰性が出る血液検査、急性以外検査をしてくれる医師がいないなどの問題がある。マダニに咬まれた覚えがない、特徴的な遊走性紅斑が出ない場合、未診断のまま進行、慢性化し、ME/CFS、多発性硬化症、ALSなどの神経系疾患や、うつ病、強迫性障害、不安障害などの精神疾患と誤診されやすい。

### 医療界の認知度の低さと専門医の不足

診断、治療ができる医師の不足や病院側の受け入れ不能、精神疾患と誤診されるなどの問題があります。研究の促進、医療関係者への啓発・教育が必要です。

### 症状もその程度も人それぞれ

寝たきり状態の方から、歩行や外出、家事などができる時とできない時がある方、辛い症状を抱えながらも仕事をしている方まで症状もその程度も人それぞれ。

### 社会保障が簡単に受けられない

病気を理解し、意見書を書ける医師の不足や症状が固定されていないという理由で、簡単には障害者手帳や障害者年金が受給できません。

### 無理解と偏見

怠けや甘えなど心の問題と誤解され、患者は、辛い症状に加えて、家庭や学校、職場の中で偏見や無理解に苦しんでいます。症状や痛みは、目に見えません。

### 引きこもりと不登校の問題

一部の「不登校」や「引きこもり」の背後にこれらの病気があっても、親も医師も精神的な病と考えると、適切な治療を受けられません。